

平成22年度  
鹿児島大学法科大学院

B日程

法学既修者認定試験

試験問題（民法）

平成22年1月23日（土曜日）

答案作成上の注意

1. 「解答はじめ」の合図があるまで、この1ページ目を表にして、この問題冊子を開かないこと。
2. 問題冊子は、このページを含めて5ページある。
3. 試験用紙は6枚配布する。
4. 試験用紙の受験番号□□□□に受験番号、試験科目□□□□に、設問番号（民法—I等）を記入すること。
5. 試験用紙のNo.□□□□に、設問ごとのページ番号（1～2）を記入すること。
6. 白紙答案がある場合でも、すべての用紙に受験番号（横書き）、試験科目、ページ番号を記入して、必ず6枚すべてを提出すること。
7. 解答は、試験用紙の指定された欄に、横書きで記入すること。
8. 試験終了後、この問題冊子と下書き用紙は、持ちかえってよい。



## 設問 I (配点 80 点)

### 問題

Bは著名な画家の作であるとして亡父から受け継いだ絵画甲を知人Aにできるだけ高価に売却することを依頼し絵画を渡した。Aは、客間に飾る絵画を求めていたCに同絵画を500万円で売却し引き渡した。A、Cは絵画甲を真作であると信じ切っていたが、その後Cが専門家に鑑定を依頼したところ贋作であり、10万円程度の値打ちしかなかった。Cは、Bに対し、売買代金500万円の返還と絵画甲の引取りを求めることができるか、錯誤の定義に言及しつつ述べよ。

## 設問Ⅱ（配点80点）

### 問題

平成20年6月6日、B会社はA会社から機械部品を代金400万円で購入する契約をした。代金の支払時期は納品後3か月以内とされた。B会社の売買代金債務につきC会社が連帯保証人となった。同年7月10日、売買代金債権はA会社からD会社へと譲渡され、B会社も承諾した。

同年7月4日、B会社は機械部品甲の引渡しを受けた。しかし機械部品甲には直ちに発見することができない瑕疵があった。B会社は納入後1か月程経って、この瑕疵に気づいた。A会社は機械部品甲の修理を試みたが、B会社は満足せず、平成21年1月6日、A会社に対して売買契約を解除するとの意思表示をした。

B、C、D間の法律関係について述べよ。

### 設問Ⅲ（配点40点）

#### 問題

Aには妻Bと、その間に長男C及び養子Dがいる。A、C、Dが漁に出て嵐に会い、3人とも死亡したが、死亡の前後は不明である。Cには妻Eとその間に子Fがいて、Dには妻G、Gの先夫との間に生まれた子Hがいる。妻Gは妊娠中であるとして、Aの遺産に関する相続関係について考察しなさい。